

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600941		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	養老の泉パートII		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人が行きたい所に行けるように外出支援に力を入れている。 家庭的な空間を持ち、ゆっくりゆったり過ごせるように取り組んでいる。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472600941&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>山間の静かな環境に所在する1ユニットの施設であり、法人の資源を活用した支援への取り組みや隣接したグループホームとの連携も図られています。明確な行動目標である「やさしさ」標語を糧として、一人ひとりの利用者への尊厳と利用者本意の支援を念頭に据え、家族とのコミュニケーションを大切に、利用者の身心の状況や仕草・習慣等を職員間で共有する中で、集団生活における個々の生活の楽しみを援助する、暮らし方のケアの実践に取り組んでいます。職員は理念に繋がる支援を目標に日常生活への反映に努めており、一人ひとりの利用者・家族「思い・願い」に添えるケアの充実を目指し、利用者の普段の暮らしを支えています。また、地域の中で生活を営む施設として、地域とのお付き合いを大切にしており、行政や地域資源の活用を通じ、連携・相互の関係づくりへの体制づくりが図られています。利用者・家族・職員・地域との連携を軸として、豊かで有意義な暮らしの支援に向け、安心・安全な暮らしに留意しながら、相互の心の通い合える施設運営に取り組む姿勢が伺えます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング後、唱和を行う事によって理念、行動目標が定着してきて実践につなげられている。	一人ひとりの個性の尊重・家族との交流に努めており、職員のチームワークと技術向上への営みを大切に支援に繋げています。地域での暮らしへの着眼と、利用者本位の寄り添う支援を志し、笑顔のある日常生活の実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を近隣の家に持って行ったり草取りや作業に参加している。また、月に一度喫茶の日を設け、近所の方に来て頂き、皆で過ごしている。	ユニット合同での催しとして「喫茶の日」を設けており、近隣の方々との交流の場づくりに取り組んでいます。ボランティアの訪問や地域行事への職員の参加、散歩や買い物支援などを通して、地域間の交流に積極的に取り組んでいます。	管理者は施設の役割りを大切に捉えています。交流を深める体制づくりに向け、地区住民の思い、地域機関からのアドバイスに着眼する中で、相互間の交流・連携の、更なる向上と継続に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、来て頂いている方に、日頃ののケアについて話したり、日頃している体操をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員さんや主治医や市議も参加され意見を頂いている。今年は防災についての話題が多く、実際に初めて近所の方との避難訓練も実施出来た。	地域密着型施設としての活動の橋渡しの会議として、相互の情報交換に取り組んでいます。利用者の近況や施設の状況を発信する中で、地域に根付いた施設づくりを念頭に、相互間の交流と協議に努めています。	個々の利用者と共に地域で暮らす施設の在り方・その日常的な支援の向上を今後の課題と捉える、管理者の意欲的な取り組みの姿勢が伺えます。相互協力の関係づくり向上に、一層の期待が持たれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、2名の市議や市職員がみえられ、サービスの取り組みや情報や意見を伺っている。また、会議の後に話をするようにしている。	運営推進会議を活用した交流を中心に、電話やメールをによる、必要事項の伝達など、相互の関係づくりが行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が話し合いを持ち、理解を深め取り組んでいる。また、コールマットを使用している利用者の家族の方には説明を行っている。	法人内の全体会議での研修を通して、全職員の周知徹底に取り組んでおり、身心の拘束を排除するケアの実践に繋がっています。職員間の相互の気づきの大切さを理解しており、利用者へ寄り添うチームづくりが図られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、虐待についての勉強会を行っている。また、スタッフ会議の度に注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなかった。12月と1月に外部研修があるので参加を呼び掛けている。活用の事例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、具体的に説明を行っている。個人情報取り扱いについて、苦情、賠償等について話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情を職員が記録し、会議の時に、良い解決を迎えられる様に話し合いを行っている。家族の面会時、職員が積極的に話掛け、何でも言って貰えるような環境作りをしている。	定期的な状況報告や面会での、家族等との会話を貴重な支援として、利用者の思い・意向の把握に努める中で、相互間のコミュニケーションに励んでいます。個々の利用者・家族の思いの実践に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期に面接を行い、意見や提案の場を設け反映されている。	理念を全職員間の柱として、チーム力のアップに努める姿勢が伺えます。利用者の暮らしやすさへの取り組みとして、職員の意向やアイデアの発案・実践に向けた協議が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻りに現場に来て把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期ではあるが、外の研修に、希望者に参加してもらうようにしている。内の勉強会もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所、グループホームネットワークに加入しているが、今年は活動に参加出来てない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に困った事、不安な事はないか、聞き取りを行っている。また、入所前には、職員が出来るだけ本人と会い話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方に、入所に至った経緯など、お聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の経緯を伺う中で、本当に本当にGH入所が良いのか、雑確認している。法人内から来る予定の方には、GHの雰囲気が出るかどうか、過ごして頂いたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	味噌汁の具切りや干し柿作りなど一緒にし共に食べている。食事は一緒に食べている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションがとれる場を設けている。また、行事への参加の声かけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との馴染みの方が時々逢いに来て下さり、自室にてお茶を飲んだり話をされている。	家族との交流を大切に、生活暦(趣味の会等)の把握に努める中で、馴染みの関係の把握と繋がり継続の支援に努めています。電話や手紙等による利用者の思いを届ける援助も行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置を考慮し、出来るだけトラブルを避けるように配慮する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方には、本人の様子を記入したサマリーを送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話をして、一人ひとりの思いを伺い、可能な限り意に添える様に努めている。ただ、困難な場合には本人本位で検討、声かけをしている。	利用者本位を大切に、寄り添う暮らしの営みを支援しており、会話や表情に留意する中で一人ひとりの思いの把握に努めています。家族との協力的な相互の関係づくりに取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からの苦情を職員が記録し、会議の時に、良い解決を迎えられる様に話し合いを行っている。 家族の面会時、職員が積極的に話掛け、何でも言って貰えるような環境作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムに合わせて出来る事を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	G・Hのスタッフ会議の時には個別に話し合いをし、意見やアイデアを反映している。また、前回の議題に対しての反省等を行っている。	担当制を用いる中で、日々の現況は職員間の共有が図られており、計画における身近な支援目標を立て、全職員で周知、介護の実践に取り組んでいます。また、利用者や家族の意向が反映された計画策定に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録表を活用、共有している。必要時は、かかわる職員が集まり、検討会議を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良がある場合には、家族への連絡を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院に行きな話をしたり、お茶を飲まれたりされている。また、ボランティアの方が読み聞かせや手芸に来られています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得したかかりつけ医となっている。また、かかりつけ医と連携を取りながら適切な医療を受けられる体制をとっている。	かかりつけ医は、利用者、家族の希望を優先しています。受診時に日頃の様子が必要な方には、職員が同行し説明を行う等、医療機関との密な連携が重視され、適切な医療が受けられる体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、情報や気づきを伝えている。また夜間の体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に病院側に介護サマリーを送っている。また、病院、家族との連絡を密に取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に近くなったら、家族、Dr、等交えて話をし方向性を共有している。また、記録に留め職員と共有している。	重度化や終末期に向けた支援の取り組みが整備されています。1月にターミナルを向かえた利用者もおり、家族に後悔が残らないよう、意向を把握する中で、家族、Dr、職員のチームワークで話し合いを重ね支援しており、家族より感謝の言葉を頂いています。	終末期には家族と話し合いを重ねる中で、方針を決め適切な対応をされています。今後は対応指針を定め、重要事項説明書に記載することで、家族の安心に繋がる支援が出来る様期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行ってはいるが、定期的には行っていない。急変、事故発生時にはバイタルチェックを行い、看護師に状況を連絡している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の体制は連絡と一斉メールを利用して対応している。今年、初めて地域の方との避難誘導等訓練を実施出来た。	年間目標にも災害時の地域との協力体制の強化を上げており、今年度は地域消防団の協力が実現できました。消防団との避難訓練を行い話し合う中で、職員は災害の意識向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際には、本人に声かけをしたり、ノックをして入るようにしている。	利用者一人ひとりの人格の尊重の第一歩として、氏名(さん付け)による言葉掛けを事業所の方針とし、職員が厳守しています。入室時や入浴、排泄時の羞恥心、自尊心を傷付けない対応に注意するとともに、ミーティングで職員間での話し合いを通して確認し、日々のケア実践に活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傍に寄り添い、言葉かけを行い、思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、またその時に体調に応じて希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	指にマニキュアをしたり、お気に入りの帽子を被られたりされている。入浴時の着替えの服を一緒に選んだりしている。また、入浴後乳液を塗られる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、厨房からおかずが来るが、時には、GHで利用者の希望を聞いて食事を作ったりしている。 魚が食べれない方には、別メニューを作って提供している。	時々、弁当にして気分転換を図ったり、体調や嗜好に合わせ、御飯やお粥の選択を行っています。厨房の職員により、栄養バランスはもとより、嗜好や、自家農園で作った無農薬野菜を中心に、季節感に配慮された献立が作成されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録表に1日の水分量や食事量がかかる様に記録している。また、食欲低下のある方には、高エネルギー半消化態栄養剤を飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三度の食後には必ず口腔ケアを行っている。また、口腔後のチェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は布パンツ、パットを使用されている方がいる。また、パット外しも出来た方もおられる。	チェック表にて個々の方の排泄パターンを把握したり、表情、落ち着きない行動等で把握し、適宜トイレ誘導を行っています。夜間、失禁される方にはポータブルトイレへの誘導で失禁を減らす対応を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらうような声かけを行ったり、散歩や体操行なっている。それでも駄目な場合は粉寒天や下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴者本人らが話し合いで順番を決めたり、入浴を拒否される方は時間をおき再度声かけをおこなう。概ね曜日を決めているが、状況に応じて配慮している。	一番風呂を希望する方が何人かおり、利用者同士で話しあったり、ジャンケンで順番や曜日を決めており、希望や状況に柔軟に対応しています。ソープの選択や入浴剤の使用に、生活習慣や希望を取り入れる等、細やかな支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣のある方などは、居室で休まれる。食後、入浴後は居室で横になられる方がいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録表に服薬中の用途用法紙をファイルしている。必要な方は飲み込めたか確認をしている。薬の効果にも、配慮するようにしている。(DM、浮腫)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、味噌汁の具切りをしている。また、焼酎を飲むのが習慣だった人には、家族や先生とも相談し嗜むようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段はいけな様な場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとり希望に応じて、神楽見学やチャリティショウに行っている。家族会に、予算を立てていただいた。外食を計画中である。	行事として月1回、利用者に季節を感じて頂く為、外出レクリエーションを計画しています。また、一人ひとりの希望に添える外出支援を行う中で、ドライブ、スーパーでの買い物等家族の協力のもと実施しています。今後は、家族一緒の外食を計画されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持され、買い物や散髪に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話がいつでも出来る様に支援している。また、手紙やはがきのやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に気を配り、心地良い環境作りを行っている。また、季節の飾りや花があり、季節感を取り入れている。	ホールは広く清潔に維持されており、暑い夏場では「よしず」を使用し、快適に過ごす工夫を行っています。壁には、利用者全員で作成した季節感のある作品が飾られ、違和感のない生活空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やウッドデッキに自由に出入りが出来る。また、気の合った利用者同士が過ごせる様にテーブルの配置を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からの持ち込みのソファや仏壇、棚が持ち込まれている。	持ち込みの制限は無く、家で使用されていたソファやタンス等馴染みの物を家族の協力により持ち込まれています。利用者の中には、畳を好まれる方がおり、ベッドの横やホールの一角に畳を敷き、自分の居場所を作ること、落ち着いた生活を送っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自走車椅子の利用者がいるので、通路の確保やトイレの手すり、ファンテーブル等を設置し自立した生活が出来るように支援している。		